



意気込みを語る大学生

## 市川の学生 地域守る 4校が防犯団体

市川市にキャンパスがある四つの大学・短期大学の学生が17日、防犯ボランティア団体を立ち上げ、市川署と協力して活動するという覚書を結んだ。警察官と街のパトロールをしたり、特殊詐欺の被害に遭わないための要点をまとめたチラシを駅で配ったりする。

4大学は千葉商科大、和洋女子大、昭和学院短大、東京経営短大。市川署に協力を要請され、統一のボランティア団体「アクア」を作った。署によると、それぞれの大学のボランティア団体のメンバー約130人が参加する見通しという。

活動はひったくりや特殊詐欺、痴漢といった具体的な犯罪の発生状況に応じて行う定期的なパトロールやチラシ配り。警察側から犯罪の発生日時やエリア、手口を学生に伝えることで、防犯意識も高めてもらう。

この日、覚書の締結式に出席した和洋女子大4年の梅田清香さん(21)は「若い学生が活動することで地域に活気を与えたい」、市川署の村上陽一生活安全課長は「自分の街は自分で守るという自主防犯意識が市内全体に広がるきっかけになってほしい」と話した。

# 市川の安全 学生が守る

## 市内4校 大学・短大と警察覚書

学生たちと協力して安全な街づくりを目指そうと、

市川署は17日、市川市内にキャンパスを置く四つの大学や短大と「大学生ボラン



覚書を結んだ市川署の西田副署長(中央)ら(17日、市川署で)

ティアに関する覚書」を締結した。

同署と覚書を結んだのは、千葉商科大、和洋女子大、昭和学院短大、東京経営短大の4校。同署によると、今年5月末までの同署管内の刑法犯認知件数は1193件で前年同期より127件減少したが、電話d.e詐欺やひったくり、子どもや女性を狙った声掛け事案が後を絶たないという。そこで、各校のボランティアサークルの学生らが「安全・暮らし・安心」の頭文字を取ったボランティアチーム「アクア」を結成。同署と協力して安全安心の街づくりを進めていくともい

若い世代に防犯意識を高めてもらおうことを目指して活動することを決めた。

メンバーらは今後、同署と合同で定期的に駅頭や商業施設でのパンフレット配布や繁華街のパトロール活動を行い、ひったくりや声掛け事案などへの注意を呼びかける。また、警察から犯罪多発地域の情報を提供してもらい、学生や市民に周知する役割も担っていく。

同署で行われた締結式で、西田忠男副署長は「自分たちの街は自分たちで守るという自主防犯意識が、学生や市内全体に広がることを期待している」とあいさつ。和洋女子大4年の梅田清香さん(21)は「警察や他大学のメンバーと連絡を取り合い、市内の安心を守りたい」と話した。